

## 第4学年 道徳科学習指導案

指導者

- 1,日時 令和2年10月2日(金)第3時限(10:45~11:30)
- 2,学年・組 第4学年2組(26名)
- 3,場所 第4学年2組 教室
- 4,主題名 互いに認め合い、思いやる心  
内容項目 B-(10) 友情、信頼
- 5,資料名 「ぼくらだってオーケストラ」  
(教材名) (出典:「新しいどうとく」 東京書籍)

### 6,主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

本主題は、友達のよさを発見することで友達のことを理解し、友達とのよりよい関係の在り方を考え、互いに助け合うことで友達の大切さを実感することをねらいとする項目である。そして、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を育成していくことが求められる。相手を認めることができるようになった心情の変化と、友達のよさについて考えさせたい。

#### (2) 児童・生徒について

本学級の児童は、授業や休み時間など、困っている友達に対して互いに教え合ったり、助け合ったりする姿が多く見られる。また、できないことや苦手なことを否定せずに、理解することができる児童が多い。しかし、相手の発言に対して、強く当たってしまったたり、他者の思いやりのある行動に気づけない児童もいる。また、日常生活でも、友達の注意やアドバイスを素直に聞くことができず、自己中心的な態度を取ってしまうという場面も見られる。そこで、本資料を通して、互いに理解し、思いやり、助け合うことができる友達の大切さに気づかせたい。

#### (3) 資料について

本資料は、市の連合音楽会に向けて、楽器の苦手な主人公のてつおになつみが親切に教える話である。てつおは初め、自分の改善点を指摘し、的確なアドバイスをくれるなつみに対して、素直になれず腹立たしさを感じていた。しかし、なつみは親身になっててつおに関わり続け、上達していく様子を自分の事のように喜んでくれる。そんななつみのおかげで、てつおはリコーダーが吹けるようになり、嫌だった連合音楽会が楽しみに感じるくらい、心情が変化する。そして、てつおはなつみに対して、次は自分がなつみに自分が得意な逆上がりを教えようと考え始めるという内容である。本資料では、そんなてつおの心の葛藤を見つめ、友情を深めるよさについて考えさせるようにしたい。そのために、友達の思いや助け合うことのよさに気づかせ、変わっていく主人公の姿を共感的に考えさせることで、友達のよさや互いに信頼し高め合う心をはぐくみたい。

### 7,ねらい

友達の指摘に素直になれなかったが、少しずつ認め、受け入れられるようになった主人公の姿を通して、互いに理解し、助け合おうとする態度を養う。

8,本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童・生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5分)	<p>みんなにとって、友達とはどのような存在ですか。</p>	<p>・いっしょに遊んで楽しかったとき。 ・助けてもらったとき。</p> <p>友達について考えよう。</p>	<p>・経験を発表することにより、ねらいとする道徳的価値への問題意識を高める。 ・個人の名前は出さないでよいことを最初に伝える。</p>
展開 (30分)	<p>・資料の範読を聞く。</p> <p>・登場人物と内容を把握する。</p> <p>「右手の小指、あなが半分あいている。」となつみに言われたのに、知らんぷりをしてつおはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>・知らんぷりをしてしまったてつおの思いを考える。</p> <p>なつみが言ったことを思い出しながらリコーダーを吹いているてつおは、どんなことを考えているのでしょうか。</p> <p>・なつみが言ったことを思い出しながらリコーダーを吹く、てつおの心情を考える。</p>	<p>・えらそうに言わないでよ。 ・そんなことわかっているよ。 ・うるさいな。 ・逆上がりできないくせに。</p> <p>・なつみの言うことはわかるけど、やっぱりいやだな。 ・なつみの言う通りにやってみよう。 ・できるようになってきた。</p>	<p>・登場人物の台詞や、発問で取り扱う部分は、ゆっくり強調して読み、印象づけるようにする。</p> <p>・友達のよさを認めることや助け合うことのよさに気づいていないときの気持ちについて話し合うようにする。</p> <p>・友達のよさや助けを受入れようとしているときの思いを考え、話し合うようにする。 ・素直に助言を受入れる意見だけではなく、まだ反抗してしまう気持ちの意見も大切に する。 ・机間指導で、手の止まっている児童などに個別で指導を行う。 ・友達のよさを認められなかったときから、認められるようになったときの、主人公の心情の変化について気づかせ る。 ・心情の変化が理解しやすいように、板書でも矢印を用いて視覚化する。</p>

	<p>てつおは、自分のことのように喜ぶなつみに、この後、どんなことを言うとおもいますか。</p> <p>・自分のことのように喜ぶなつみを見て、てつおがどんなことを言ったか、想像する。</p>	<p>・友達のをきを認めることや、互いに助け合うことのをきに気づいたときの気持ちについて話し合うようにする。</p> <p>・曖昧な表現などには、その気持ちになった経緯を、追発問で深めさせる。</p> <p>・それぞれが考えた、てつおがなつみに対してかけた言葉を発表させることで、一人ひとりの考えを深めさせる。</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>・自己を振り返る。</p> <p>友達にどのような場面で親切にしてもらいましたか。また、そのときどんな気持ちになりましたか。</p> <p>・それぞれの経験について発表する。</p> <p>・まとめをする。</p>	<p>・児童それぞれの経験を振り返り、互いに認め合い、思いやることの大切さに気づかせるようにする。</p> <p>・他の児童が共感しやすいように、具体的な経験を発表させる。</p> <p>・友情は、信頼し合い、助け合うことが大事であると感じた話をする。</p> <p>・児童が身近に感じられるような話をし、思いやる心の大切さに触れる。</p>

# 19 ぼくらだってオーケストラ

四年 組名前( )

1 「右手の小指、あなたが半分あいている。」となつみに言われたのに、知らんぷりをした。てつおはどんな気持ちだったでしょうか。

2 なつみが言ったことを思い出しながらリコーダーを吹いているてつおは、どんなことを考えているでしょうか。

3 てつおは、自分のことのように喜ぶなつみに、この後、どんなことを言うと思いますか。



4 ふりかえり

①友だちにどのような場面で親切にしてもらいましたか。また、そのときどんな気持ちになりましたか。



②今日の授業の感想をどうぞ。(分かったこと、感じたことなど)

◎○△  
をそれぞれ  
つけよう



自分の意見を伝えることができたか。	
友だちに意見を伝えることができたか。	
今日の授業を通して、新しい発見や気づきがありましたか。	
今日の授業で学んだことを、これからの生活に生かしていこうと思えましたか。	